

つとむ通信



地域力 UP！

1. 個々の知恵やアイデアを汲み上げて
2. 地域の特性を生かして
3. 心と心が響きあう安心の社会を

富津市議会議員 渡辺つとむ後援会事務所 千葉県富津市千種新田375-5

TEL0439-65-0526 FAX0439-65-0683

e-mail tsutomu364@rondo.plala.or.jp

政策討議資料

No.24 令和2年 新春 議会報告



新年あけましておめでとうございます。

皆様には穏やかな新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年の台風の際に被害にあわれたかた、未だにブルーシートに覆われた屋根や不具合のある住まいにご不便を感じていらっしゃる皆さんには心よりお見舞いを申し上げます。一日も早く普段の生活に戻れます様、お祈り申し上げます。富津市議会議員 渡辺つとむです。

今回は令和元年12月までの活動について報告をさせていただきます。

富津市民の皆さんが安心して穏やかに、そして将来に希望を持って暮らせるまちをどのように実現していくか。どんな課題があり、どんな取り組みをしているのか？活動の一端をご報告させていただきます。

これからも「市民に顔の見える議員でありたい。」この姿勢を貫きます。

☆市政報告

今年度12月までの富津市議会での議案について、主なものを報告いたします。

※1 地域交流支援センター開設

国道127号の富津中央インターチェンジを南に下りホームセンターのT字路を左に曲がった先にあった「天羽老人憩いの家」を改装し新しく「地域交流支援センター」が誕生します。子育て中の親子の交流の拠点とすること、悩み事の相談や援助をできるようにすることで子育てしやすいまちづくりを進めます。

つとむの視点

地域交流支援センターは今後も各地に充実させていく予定ですが、子育て世代の家族の利用しやすい施設とするためには、運用の仕方についての継続した検討が必要で

す。ハコモノありきではなく、出生率のアップや地域への若者たちの定着率を高めるためにはその「困りごと」をいかに解決するか？その世代の本当のニーズを知り対応していくことだと思います。まずは同じ世代同士の悩みを相談したり話し合ったりできる場所、そしてベテランのお母さんたちとの交流もできるような施設になってほしいと思います。

※2 タクシー利用料金の助成

運転免許証を持たない方で、65歳以上の人や要介護・要支援該当者、妊産婦など運転手段のない市民を対象にタクシーの利用券を配布する制度が始まりました。対象者には500円の利用券を、年間36枚を上限に配布し交通弱者の手助けとなるべく取り組みを進めます。

(詳細は市役所企画課まで80-1223)

つとむの視点

免許を持たないご高齢者などにはぜひ利用していただき、買い物や病院への通院などに役立てばと期待していますが、実際には一回に使えるのが一枚で500円ということで、目的地までの利用にはちょっと少なすぎるとい課題も指摘されています。(初乗り料金 740 円) また利用する地域から目的地までの距離にも大きく関係します。

数人で乗り合わせにすれば数千円を利用可能ですが同じ目的地(例:病院・スーパー等)に乗り合わせで行く同乗者を見つけるのも難しいというご意見を伺いました。

市民の交通手段の確保は大きな課題ですが、どのようにすれば使いやすくなるのか? 仕組みを作って終わりではなく、その後の制度の手入れ(メンテナンス)が必要だと思います。

※3 水道事業が広域化され広域企業団に

今までかずさ4市がそれぞれ独自に行っていた水道事業(水を市民に届ける仕事)と、合同で行っていた用水供給事業(水を浄水場で作る仕事)を一緒にして、一つの企業団として行うことになりました。名称は「かずさ水道広域連合企業団」 皆さんも水道の検針票などで目にする機会が多くなると思います。

つとむの視点

4市合同での事業は、水道だけではなく今後一層増えてきます。当市でも多くの議論があった火葬場や、今後用地の選定が始まるゴミ焼却施設などです。(ゴミ焼却施設は南総 6 市1町) 各市とも人口が減少する社会に向かっていく中で、それぞれが施設をも

って運営するより合同でやった方が効率的な事業は広域化でコストを減らしスケールメリットを目指すべきだと考えます。

一方で、何でもかんでも広域化が良いかというと少し違和感があります。私たち富津の独自性が失われないように。人口の多い自治体の論理が優先されるあまり、かえって富津市民が不便になったり高いコストを払ったりする広域化にははっきり異論を唱える必要があります。重要なことは私たち富津市民はどんなまちに住もうとしているのか?どんな暮らしをしたいと考えているのか?を見失わないことではないでしょうか。

今回、渡辺つとむは水道広域連合企業団議会の議員に選出されました。(富津市選出議員の割り当ては全 13 人中 2 人)

企業団議会の中で言うべきことは言う、合意すべきは合意する。そんなスタンスで行動をしてみたいです。

※4 大佐和老人憩いの家 廃止



千種新田にある大佐和老人憩いの家(旧母子センター)が廃止されます。老人会などでお年寄りの集まる場所として利用されていましたが、令和2年3月をもって使用できなくなります。管理を外部団体をお願いしてありましたがその団体から、今後は管理をできないとの通告があったためです。廃止後は地

代や維持管理費用を負担のできる団体や民間を募り、なければ解体する方針です。

つとむの視点

この施設は地域のお年寄りの集まる場所として、敬老会などに利用されています。指定管理者から「もう管理できない」という申し出があったのは残念です。建物は市の所有で昭和60年に建設されました。鉄筋コンクリートの建物で、耐用年数はあと15年ほど残っていて地域の避難所にもなっています。

まずは新たな指定管理者を募集するなり、他の管理方法を地域住民と考えるなどの方策を考えるべきで、解体するのはその後でもよいのではと考えます。

公共施設を統合して不要な建物を廃止・解体する事で効率的な市有財産の運用を目指す事には賛成です。「再配置構想」ということで私もずっと取り組んできた課題です。

しかし市民の税金を使って建てた建物で、資産価値がまだまだ残っているものについては、少なくとも近隣住民に打診するなり説明するなりしてから方針を決定するべきと思います。地域の皆さんとともに有効活用の道が無いものか？考えてまいります。

☆台風被害について(防災について)

昨年9月9日未明に富津を襲った台風の被害は私たちに多くの教訓を残しました。

日頃から備えておいたはずの防災の知識や器具・備品などの準備があまり役に立たなかったと感じたかたも多かったのではないのでしょうか。私もそんな歯がゆい思いをした一人です。例えば「防災訓練」をいかに自分事として、具体的にどのような災害を想定して行動するか？実際の状況を思い浮かべな

がら備えるべきだと感じました。また、今回のような長期にわたる停電について、有効な対応策が無かったのだろうか？今後検証が必要だと感じています。

また、議会としての動きが見えないというご指摘もいただきました。これは全議員がまず反省し、真摯に受け止めなければいけない課題と感じています。私を感じたのは個人としてはそれぞれがボランティアをしたり、市とのつなぎ役をしたりと活動をしていましたが、「議会全体として議会でしかできない行動・支援」に取り組めなかったことを残念に思うと同時に、反省するべきだと痛感しています。



台風15号の後、屋根に上りブルーシートを張る作業

今回のような災害時に議員が一番やるべきことは「市民の情報・困りごとを行政や災害対策本部に伝えること」と「行政や災害対策本部の考えや見通しを被災者・市民に伝えること」だったと思います。それが組織的にできなかったことは議員が率直に反省するべきであるし、早急に対応策を考えるべきだと感じます。

今回、被害の大きい地域で復旧に一番有効だったのは、区長さんをはじめとする地域の方々の「ご近所さんを気遣う姿勢。お隣で困っている人を周りのみんなで力を合わせて助け合おうとする気持ち」でした。

よく災害時に必要なこととして「自助・共助・公序」という言葉が使われます。まず自分でできることをやる。その後、ご近所をはじめとする地域コミュニティでともに助け合う。そして最後に公的な援助などを利用する。」と言われます。今回はご近所の人困っているのを「これが共助だ！」と使命感をもって取り組んだというよりは、そんなことを考えるヒマもなく、純粋に「隣のおばあちゃんが困っているから助けてあげよう！」とか「あその人は、きっとこんなことで困っているからこれを持って行ってあげよう！」とか。そんな自然な人への思いが行動につながったのではと思います。

人と人とのつながり、それも親戚・血縁だけでなく「地縁」というものが重要なのだと私は実感しました。私が初当選以来、テーマとして掲げさせていただいている「地域力アップ」こそが重要なのだと確信を新たにしました。

☆議会報告会

昨年暮れに「台風被害から見てきたこと感じたこと」と題した市民の皆さんとの意見交換会を市内3地区で開催しました。



今回の議会報告会には例年になく多くの市民が参加してくださいました。そこで私が感じたのは区長さんをはじめとする地域コミュニティのリーダーに非常時の行動マニュアルを用意しておく、迅速な対応が可能になるということ。また災害が予測される場合は事前に市議会のメンバーで対応を協議しておき、市民にタイムリーに答えられる対策を準備しておくべきということです。今後は「議会災害対策会議」が立ち上げられるよう行動をしてゆきます。

活動報告



←台風19号で海岸に漂着した大量のごみ

県外のボランティアが → ゴミの片付けのお手伝い



←姉妹都市カールスバッドの高校生と大貫小学校児童との交流



編集後記

まもなく三期目 合計12年間の議員の活動が任期を迎えます。この4年間、前半は教育福祉常任委員長、後半2年間は議会運営委員会委員長を仰せつかり、議員個人ではなく議会を有効に機能させる「機関」としての組織体制づくりに取り組んできました。まだ志は半ばですが多くの皆様にご理解をいただき感謝申し上げます。